



杉二だより



令和4年度 11月号  
 杉並区立杉並第二小学校  
 〒166-0016 杉並区成田西 3-4-1  
 TEL 03-3313-0564  
<http://www.suginami-school.ed.jp/sugi2show/>



## 杉二小がアニメ映画「ぼくらのよあけ」の舞台となる

本校がアニメ映画の舞台になるという「しあわせな奇跡」が起きました。今から2年前の夏に、杉並区産業振興センターとアニメ映画の制作会社からの話が発端です。当時は、校舎改築工事が実際に始まる前でしたので、改築中のよい思い出になればと思っていました。その後、3月末にプレス発表があり、8月末に10月21日（金）に全国公開の発表があると、いよいよ現実味が増し、期待が一気に高まりました。

そして、関係者の皆様のおかげで、映画の封切前に、子供たちに向けての試写会や卒業生や保護者、地域の方々に向けての試写会が行われました。子供たちへの試写会の際には、原作者や主な出演者にお越しいただき、子供たちの質問にも答えていただきました。

さて、映画の舞台となった阿佐ヶ谷住宅は、日本住宅公団によって1958年に竣工した団地で、建築家の津端修一氏が手掛けました。2階建ての連棟式タウンハウスが45棟と中層団地7棟があり、総戸数は350戸でした。映画に出てくる牛乳瓶のような給水塔がシンボルであり、建物と建物の中の「コモン」スペースが自然あふれる共用スペースとして利用されていたそうです。今井先生は、人気のあった阿佐ヶ谷住宅が建て替えの対象となったことを知り、「ここを舞台にした漫画を描きたい」と思われたとのことでした。そして、阿佐ヶ谷住宅が杉二小の学区域だったため、「主人公の沢渡悠真の通う杉二小」が登場することになります。阿佐ヶ谷住宅は2016年に、「プラウドシティ阿佐ヶ谷」として生まれ変わっています。

試写会を終えた子供たちの感想からは、

「悠真があきらめずに宇宙船を帰そうとして、やり遂げたからすごいと思った。」

「ナナコと悠真が再開できますように。」

「自分たちの町や杉二小が映画になってうれしかった。」

「ロボットにも感情のある未来が来るのだろうか。」

「最初は楽しい気持ちでしたが、途中からせつなく、悲しい気持ちになりました。」

「2049年の世界が楽しみにになりました。」

「知ること つながること 伝えることを大切にしていきたいと思いました。」

「自分は変化することが苦手なタイプだけど、映画を見て変化することに勇気をもらいました。」等、一人一人が感じたり、考えたりすることができたことが分かりました。また、ストーリーや登場人物から、本校の教育目標「やさしくなる しあわせになる」や「人は今よりもやさしくなるため、しあわせになるために学ぶ」ということが感じられます。まさに、「子供ファーストの杉二小」を象徴するような素晴らしい映画だと思いました。ぜひ映画館で見ていただき、本校の子供たちや同窓生や阿佐ヶ谷住宅を知っている皆様やこれまで杉二小に関わっていただいた「オール杉二」の皆様で、感動体験を共有したいと思います。よろしく願いいたします。

### 11月のあいさつ標語

○あいさつは **せかいみんなの あいことば**  
**3年生 児童作品**

○あいさつで **みんなの心 つなげよう**  
**6年生 児童作品**

### 11月の生活目標

「思いやりや助け合いの心をもとう」  
 思いやりや助け合いが大切だということは、どの子も学んで知っています。今月は、「心を形にする」ことを意識させていきます。思いやりの心や助け合いの心を「言葉や行動」という形に表して友達や地域の人に伝えることが目標です。